

2019年JAF関東ダートトライアル選手権第10戦 JMRC関東ダートトライアルシリーズ JMRC全国オールスター選抜戦 360-Racing ダートトライアル2019 [JAF公認No.2019-1715]

開催日：9月22日 開催場所：丸和オートランド那須 格式：準国内 主催：360R [JAFクラブ登録No.加盟09040]、NDC-TOKYO [JAFクラブ登録No.公認13003]

レポート／若槻幸治郎 フォト／関根健司

S-1クラスは“大型新人”、平川慶一選手が
シード勢を抑えて見事に優勝を飾った。



ハンシードの平川慶一ミラージュ、強豪達を抑えて初優勝

長

かったシーズンもそろそろ終わりに近づき、全国の地区戦が各カテゴリーで最終戦を迎えている中、全10戦で戦われたJAF関東ダートトライアル選手権もついに最終戦を迎えることになった。コースは関東ダートラのメッカ、丸和オートランド那須。同コースは来期より大幅なコース改修が行なわれるため、現行のコースで開催される関東地区戦としては、これが最後の一戦となった。

エントリーは65台。当日の天候は最終戦に相応しく、快晴の秋晴れ。気温も、暑くもなく、寒くもなくという快適な気候の下での開催となった。コースレイアウトは、スタート直後はS字に行かずに“富士山”の左側を通過してストレートに入り、“象の鼻”を時計回りでコーナリングして戻ってくるという、あまり例のないものとなった。

シリーズ争いでは、ここまでチャンピオンが決まっていなかったクラスがN1500&PN1、N1、S1の3クラスだが、特に熾烈だったのがS1クラスだ。タイトルの権利を持っているのはともにシビックに乗る松井誠、杉浦忠洋の2選手。有効ポイントが両者とも97点と、全くの同点で最終戦を迎えたのだ。

どちらも優勝した方がチャンピオンという白熱した展開の中、第1ヒートをトップで戻ってきたのは1分55秒284を叩き出した全日本ドライバーの深田賢一選手。さらに2番手には「ダートラを始めて2年目、地区戦はまだ3戦目なんです」という新人、平川慶一ミラージュがつけ、松井選手は3番手、杉浦選手は4番手という順位で折り返す。

第2ヒートに入ると続々とベストタイムが更

新され、1分50秒台の勝負になるかと思われたが、平川選手は49秒734までタイムを更新。結局これがベストタイムとなり、見事に逆転優勝を飾った。「いつも深田さんたちとは秒単位で離されるので、優勝は自分でも驚いています」と、平川選手は、嬉しさの中にも戸惑いの表情を見せて振り返った。

一方、深田選手はタイムを伸ばさず4位で終了。タイトル争いは松井選手が2位、杉浦選手が3位でゴールしたため、松井選手がチャンピオンを獲得した。「実は丸和は苦手なので今回も勝てませんでしたが、今年は野沢の2戦で勝てたのが大きかったですね」と松井選手。0.065秒及ばなかった杉浦選手は「悔しいですけど、新潟ラウンドで自滅したのが敗因ですね」と肩を落としていた。

1. PN-2&PN-3で3位の丸山裕二選手。2. N-2で3位の橋本篤典選手。3. Dで3位の熊川嘉則選手。4. S-1で3位の杉浦忠洋選手。5. S-2で3位の高橋昌宏選手。6. N-1500&PN-1で4位の若林賢太郎選手。7. N-1クラスは杉谷永伍選手が僅差で優勝を飾った。





S1500&PN1クラスでは、シリーズトップの鈴木義則選手が「勝ってチャンピオンを決めます」と鼻息も荒く、スタート。だが第1ヒートは「去年の81スウィフトから31スウィフトに乗り換えたんです」と言う栗原まさき選手がトップを奪い、鈴木選手はまさかの4番手と出遅れる。

第2ヒートに入ると鈴木選手はさらに順位を落とし5位で終了。一方、シリーズ2番手で追いかけていた川島靖史選手は、優勝が逆転Vの絶対条件だったが、結果は惜しくも2位。「2本目は

タイヤをフロントをスーパードライ、リヤをドライの組み合わせにしたら、リヤが出すぎてロスしてしまって。欲を出すとダメですね」と悔しがっていた。

優勝は栗原選手がさらにタイムを縮めて逃げ切り、鈴木選手がチャンピオンを確定。鈴木選手は「自力チャンピオンじゃなくて残念ですが、チャンピオンは初めてなので嬉しいです」と喜びを爆発させていた。

N1クラスではシリーズリーダーの島村茂選手を杉谷永伍選手が7点差で追っているが、こちらも勝った方がチャンピオンだ。杉谷選手は「丸

8. PN-2&PN-3で2位の松来吉彦選手。9. N-1500&PN-1で2位の川島靖史選手。10. S-2で2位の平田満選手。11. N-1で2位の北原栄一選手。12. S-1で2位の松井誠選手。13. N-2で2位の影山浩一郎選手。14. 白熱した展開となったDクラスは星野伸治選手が若手の國政選手を0.1秒凌いで優勝。15. PN-2&PN-3クラスは武石裕二選手が大差をつけて優勝。16. S-2クラスは宮地雅弘選手がヒート2で1分41秒台に叩き込んで勝負を決めた。17. N-2クラスは大橋邦彦選手が全日本ドラの影山選手を逆転で下して優勝。18. N-1500&PN-1クラスは栗原まさき選手が2本ともベストを叩き出して快勝。19. N-1500&PN-1で3位の布施浩之選手。20. N-1で3位の鈴木良信選手。21. Dで2位の國政九磨選手。22. N-2で4位の足立由夫選手。23. Dで4位の入澤勇選手。24. S-2で4位の星野悟選手。25. S-1で4位の深田賢一選手。26. N-1で5位の峯岸伸也選手。27. N-1で4位の島村茂選手。28. Dで5位の渋谷修一選手。29. N-1500&PN-1で5位の鈴木義則選手。

和は4戦中3勝しているので得意なんです」と自信を覗かせ、その言葉通り、第1ヒートはトップ。対する島村選手は3番手といまひとつだ。

第2ヒートでも杉谷選手は、ただ一人、1分48秒台に乗せてトップを堅守。全日本の北原栄一バルサーが0.2秒差まで迫ったが、首位を守り切った。快心の走りで逃げ切った杉谷選手は、「今までは、雨で勝ったり、4駆が有利な中で勝ってきたけど、今回はドライでの勝利なので格別嬉しいです」。島村選手は「走りは悪くなかったけどダメでしたね」と結局4位まで順位を落として終了。悔しい一戦となった。

